生物多様性からみた
遊休農地の利活用について



（財）大阪みどりのトラスト協会
天　満　　和　久

三草山ゼフィルスの森の麓、神山遊休農地の再生

里地里山の持続可能な管理・利用
農林業、バイオマスなどの新たな活用を
通じた自然資源の利用管理の維持・活性化

野生動植物の生息地の保全・管理
生物多様性の確保、希少種の保護・・・

伝統的な生活文化の継承
地域独自の生活や文化における
知恵や技術の伝授

活動フィールドとしての利用
環境教育、自然体験活動、企業CSR活動

結果的に
人間の頻繁な往来が野生動物を田畑に近づきにくくし、獣害を軽減

良好な景観の保全
棚田や茅葺の集落など
美しい里地里山景観の維持管理

三草山ゼフィルスの森へ

ススキやセイタカアワダチソウなどの雑草だらけが・・・





まずは、

草刈りから・・・









刈り払った雑草を焼く





デコボコができたところに
水がたまると・・・

早くも水場を求めて
やってきた生きものが！



よみがえれ！
里山の水辺

“タガメの田づくり” 始まる！

産業や文化とともに育まれてきた貴重な自然
生きものの宝庫　能勢町での挑戦

自然、文化、地域の多様な価値や人と人との絆など、
ここ数十年間に失われたものの再生に取り組む時代







山と人をつなぐ架け橋として、遊休農地を活用

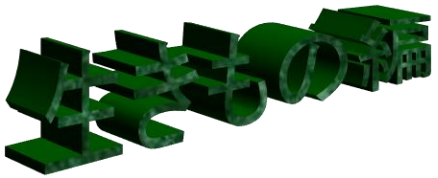
タガメを頂点とする水系の生物多様性を確保



里山の食物連鎖（食物網）



よみがえれ！　里山の水辺
“タガメの田づくり”









タイコウチ

日本の水田稲作は、２千年もの長い歴史があり、
水田での人の営みに適応した多様な生きものが
ともに暮らしてきた



ニホンアカガエル





カヤネズミ（巣）

昔はふつうに暮らしていた生きものたちをよびもどせ！



よみがえれ！　里山の水辺
“タガメの田づくり”













初めてのことが多いけれど、「タガメの田づくり」はボランティアの手により着実に進んでいます


２００９年１１月６日
遊休農地の復活物語が始まる

能勢町神山は騒然！



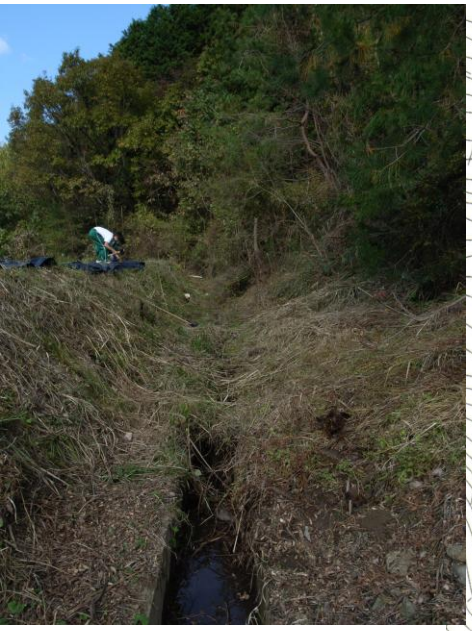
関西大学第一中学校３年生
約２６０名が遊休農地の復活へ参戦！



神山遊休農地の再生



イノシシにくずされた
畔の補修



水路の整備





イノシシやシカなどの
獣害防止用の柵の設置





ススキなどの
根っこの掘り起こし

ほっと、一息・・・。

昼食時には、「城好会」が準備してくれた
豚汁をみんなでいただく
地元のひとびとの気づかいに心から感謝！

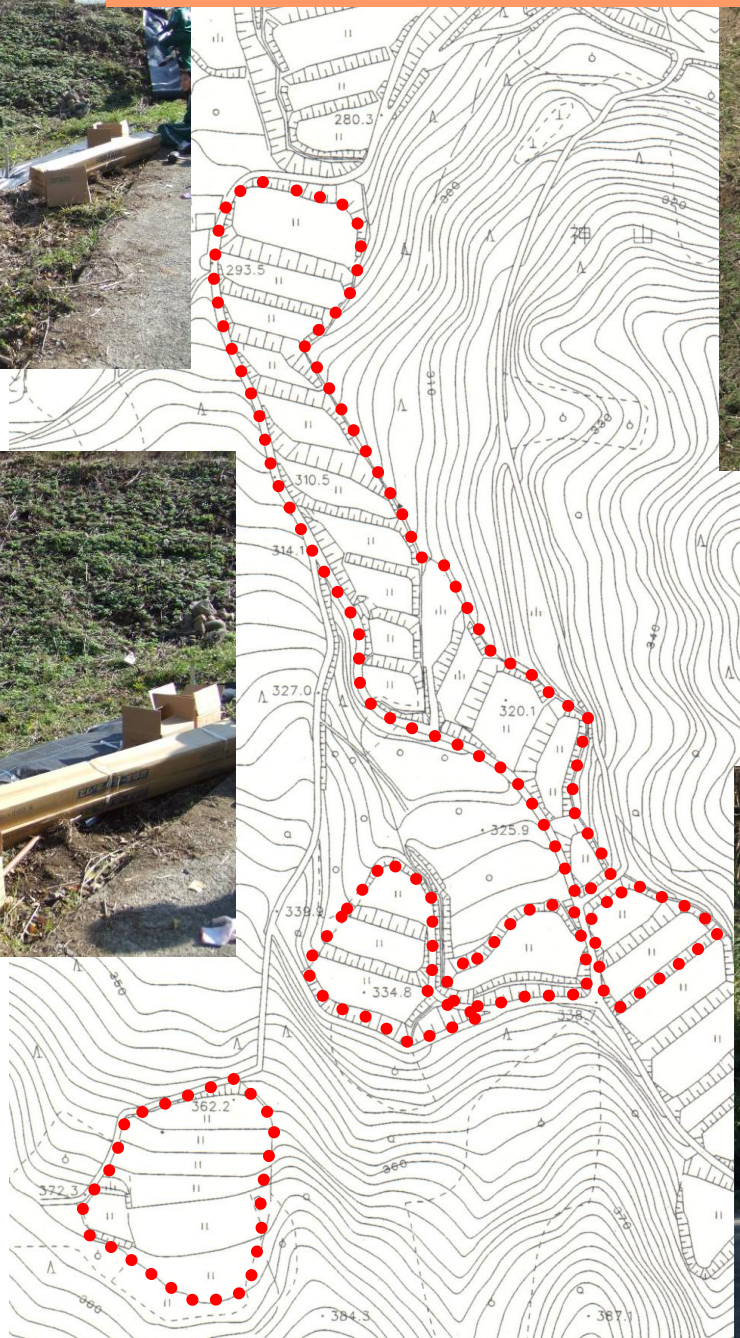


神山遊休農地の再生









イノシシやシカなどの
獣害防止用の柵の設置





神山遊休農地の再生







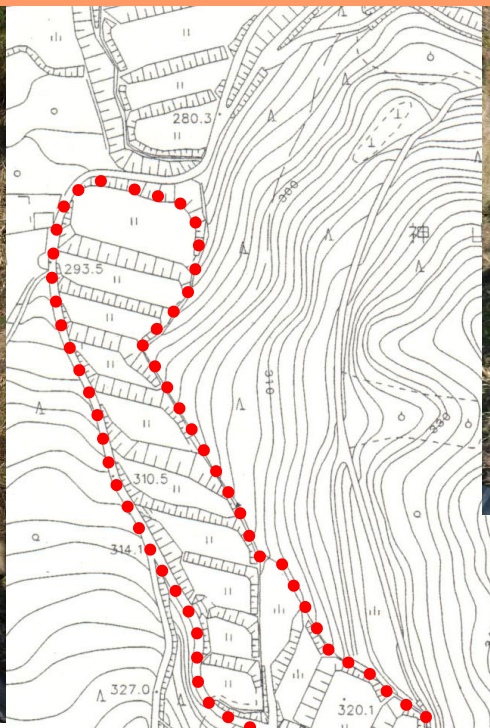


ススキなどの
根っこの掘り起こし



神山遊休農地の再生











水路の整備



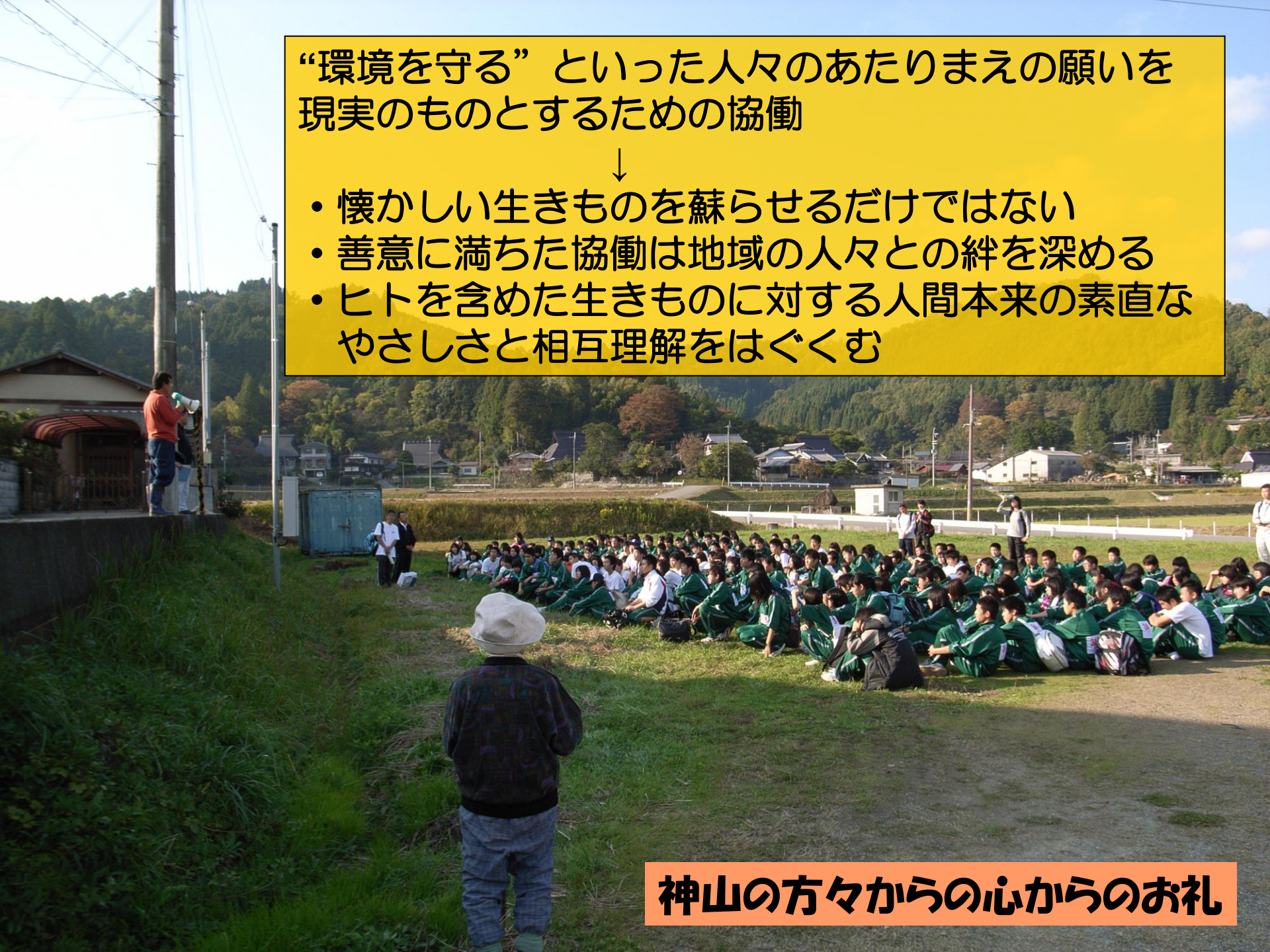
神山遊休農地の再生











“環境を守る”といった人々のあたりまえの願いを現実のものとするための協働

↓

- 懐かしい生きものを蘇らせるだけではない
- 善意に満ちた協働は地域の人々との絆を深める
- ヒトを含めた生きものに対する人間本来の素直なやさしさと相互理解をはぐくむ

神山の方々からの心からのお礼

能勢町役場裏の農地の活用

畑のエリア

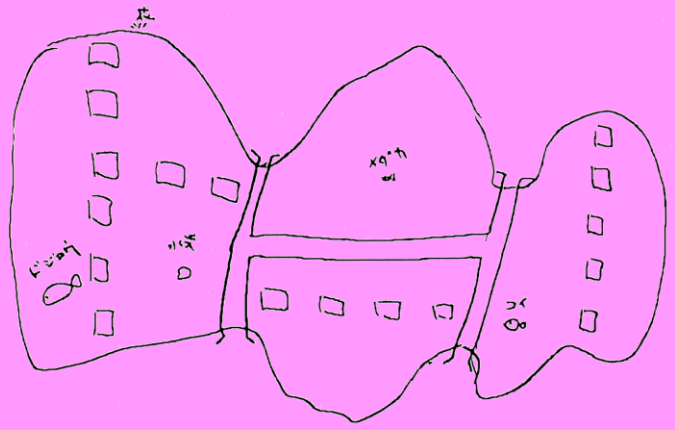
田んぼのエリア

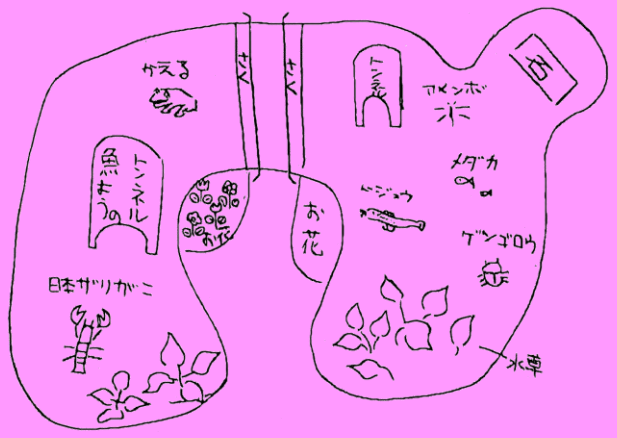
右下の写真撮影方向

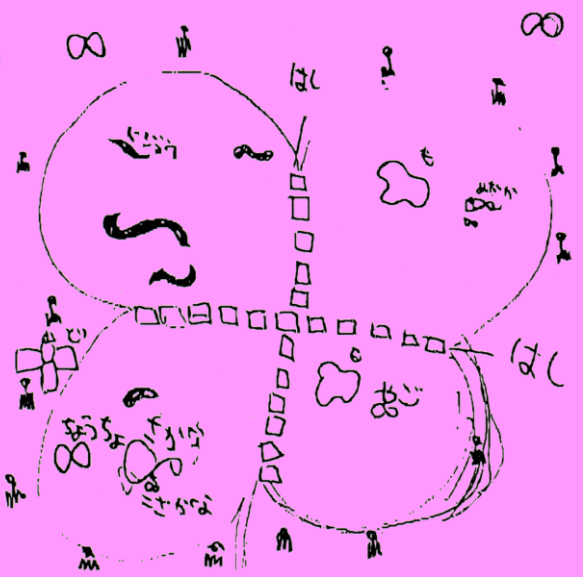
ビオトープのエリア
（能勢のメダカの増殖）

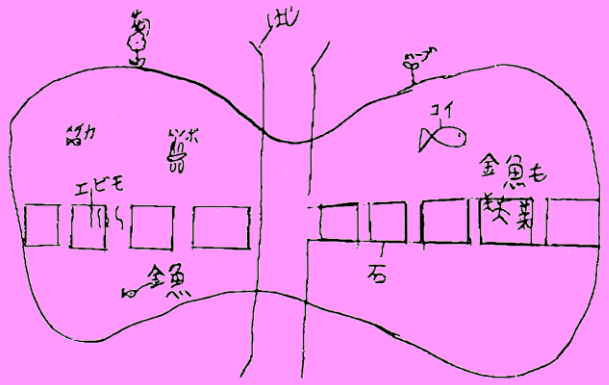


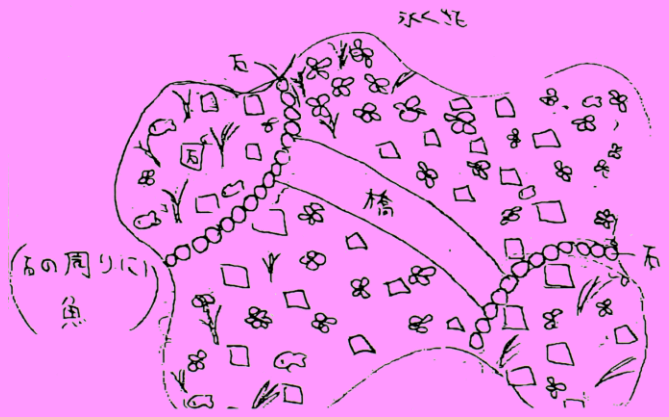
能勢町立久佐々小学校の生徒たちの“夢のビオトープ”

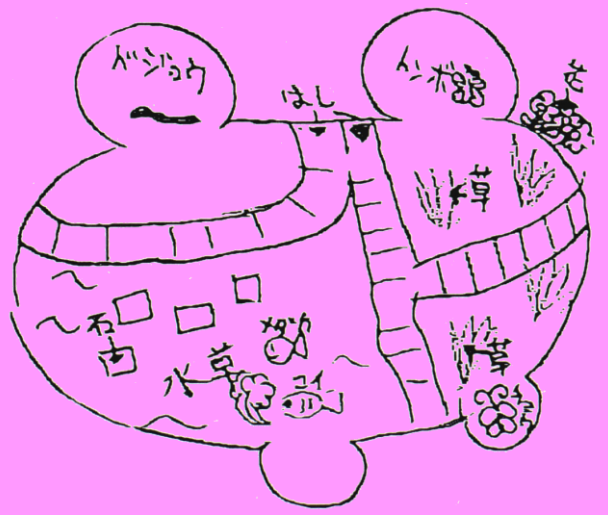


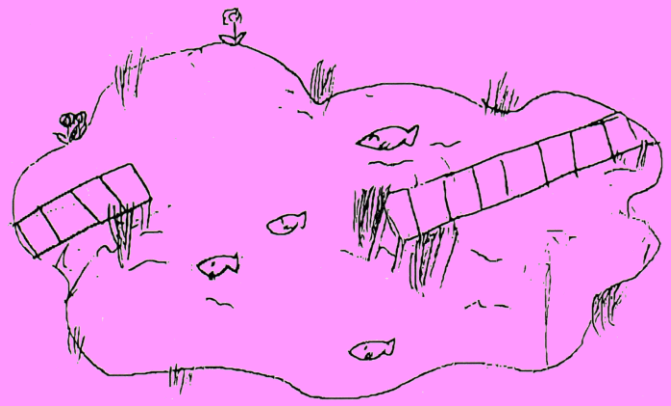


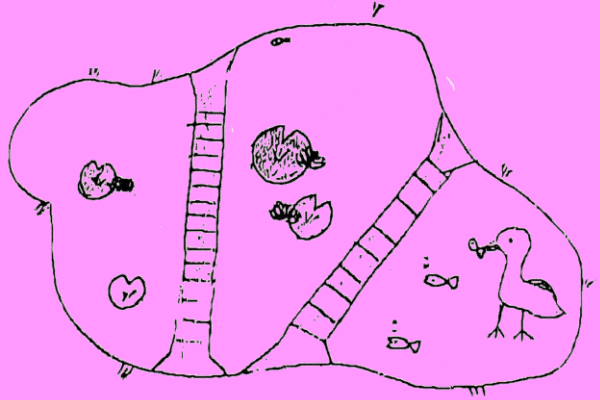


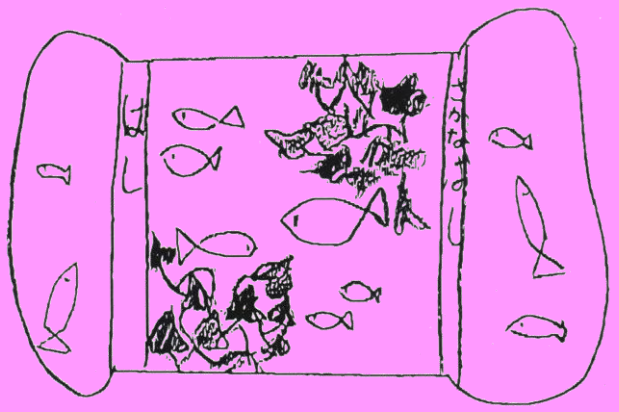


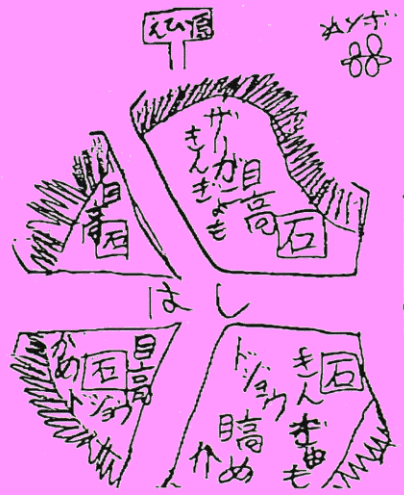


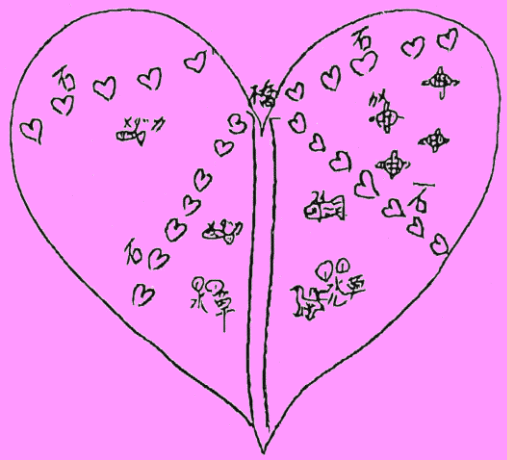


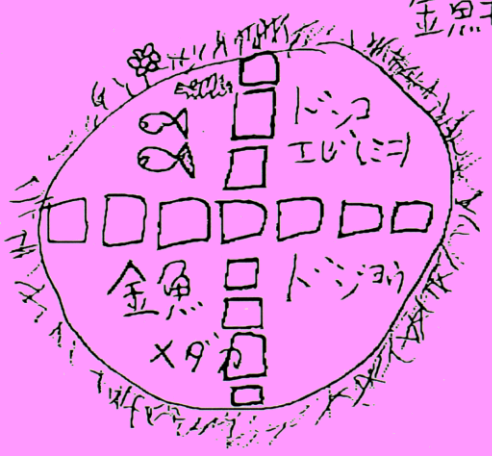


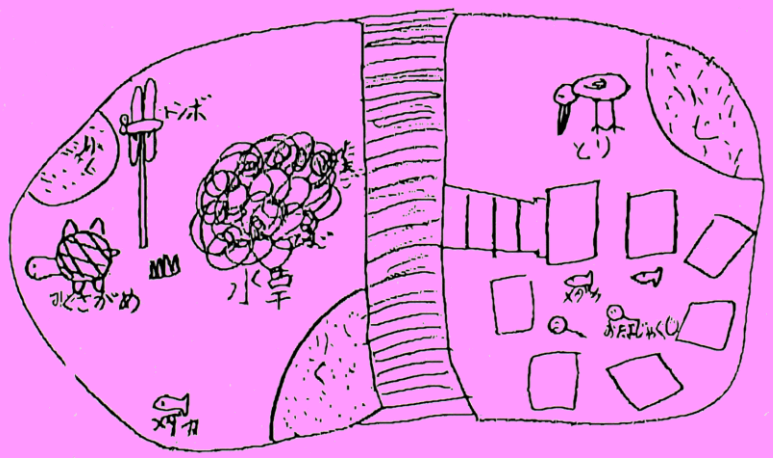


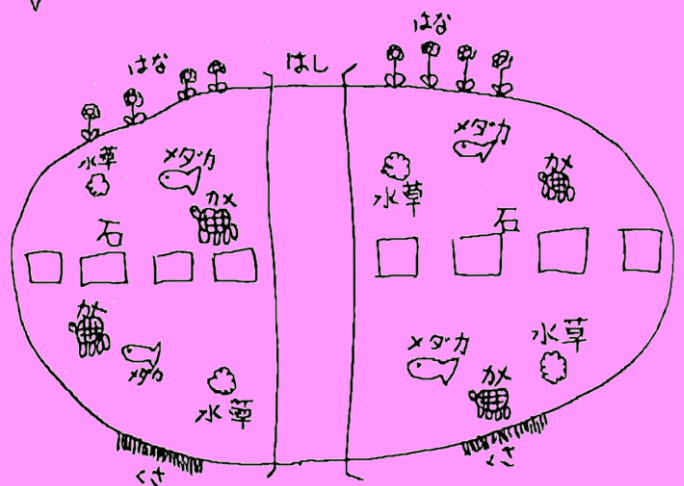



えひめ県
めんず
ちゃこうアイハ
うのすず草
アゲハ
もんがん
水草
目高
石
かめ
きんぎょも
ざりがた
はし
青石
ざりがに
きんぎょも
目高
石
石
きんぎょも
トンジョウ
目高
かめ


石
水草


金魚も
トンコ
エビ
ミニコ
トンジョウ
金魚
メダカ


カンボ
水草
かめ
とり
メダカ
おたまじゃくし


はな
はし
はな
水草
メダカ
石
水草
メダカ
水草
メダカ
水草
石
水草
メダカ
水草
くさ
くさ







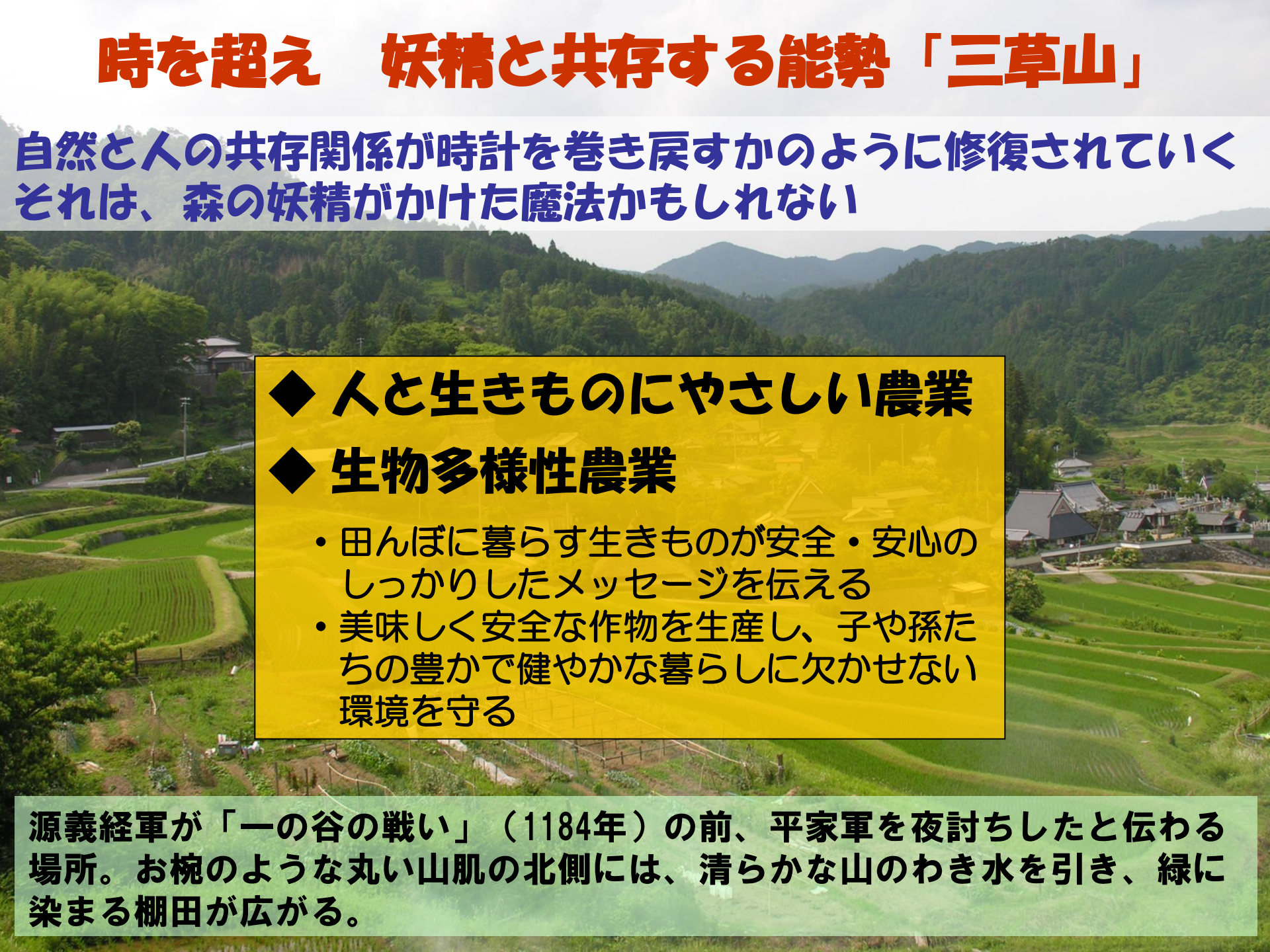
しかし、シカは
もうやってきている！

◆ビオトープのエリアでは、能勢産のメダカの保護を行います

◆シカやイノシシの獣害対策を行って、安心・安全な季節の農産物をつくります

時を超え　妖精と共存する能勢「三草山」

自然と人の共存関係が時計を巻き戻すかのように修復されていく
それは、森の妖精がかけた魔法かもしれない



◆人と生きものにやさしい農業

◆生物多様性農業

- 田んぼに暮らす生きものが安全・安心のしっかりしたメッセージを伝える
- 美味しく安全な作物を生産し、子や孫たちの豊かで健やかな暮らしに欠かせない環境を守る

源義経軍が「一の谷の戦い」（1184年）の前、平家軍を夜討ちしたと伝わる場所。お椀のような丸い山肌の北側には、清らかな山のわき水を引き、緑に染まる棚田が広がる。